

2019年8月18日(日)朝10:10~
8月第3公同主日礼拝式説教

主の聖靈降臨節第11、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：罪人を招かれる主(13節)

聖書：マタイ 9章9~13節

<口語訳>

新約聖書12~13頁

マタイ 9章9~13節

<新共同訳>

新約聖書15~ 頁

マタイ 9章9~13節

<新改訳第3版>

新約聖書15~ 頁

マタイ 9章9~13節<塚本訳>

新約聖書90~ 頁

主題：主イエス様から賜った聖靈の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論：

- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主（メシヤ）なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日のマタイ9:9～13は、取税人（徴税人）マタイの招きと罪人の食卓に主が着かれた箇所です。

⇒マタイ8:18～9:8の自然の支配や中風の癒しと罪の赦しの権威に続き、マタイにおける神・「御子イエス・キリスト様」への権威への服従を主が求めておられます。

⇒先週14日朝1:56、SM姉が主のみ許に召されました。ご主人G兄の提供して下さった兄嫁のSN姉と映った写真は、明るくVサインしたものでした。SS兄のもとで育った子供さんたちは、神信仰をかかげたご一家です。SM姉は、結婚後、ご主人を信仰告白に導かれています。

⇒七塚開拓団で、苦労なさりながら、2男1女を育て、92歳で、凱旋されました。

本論；

◇本日、**マタイ書9章9～13節**から主の**使信**に
思い・心vousをとめます。

◆**マタイ9章9～13節**；使徒マタイは、自らを
当時、人々から嫌われていた**取税人(徵税人)**
マタイとして**神の権威**に従い、「**罪人を招く主**
(13節)」示しています。

◇**9～13節**；塚本訳◆税金取りマタイ

「9 イエスはそこから出かけて、(湖のほとりで)
マタイという人が税務所に坐っているのを見て、「わたしについて来なさい」と言わされると、
立って従った。

10 イエスが家で食卓についておられるたとき
のこと、大勢の税金取りや罪人も来て、イエス
や弟子たちと同席していた。

11 パリサイ人はこれを見て、弟子たちに言った、
「なぜあなた達の先生は、税金取りや罪人と
一しょに食事をするのか。」

12 聞いて言われた、「丈夫な者に医者はいら
ない、医者のいるのは病人である。

13 『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』
という(神の言葉の)意味を、行って、勉強し

たがよからう。わたしは正しい人を招きに来たのではない、罪人を招きに来たのである。」」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇9～10節；「イエスはそこから出かけて、(湖のほとりで)マタイという人が税務所に坐っているのを見て」、「『わたしについて来なさい』と言われると、立って従った。」「イエスが家で食卓についておられるたときのこと、大勢の税金取りや罪人も来て、イエスや弟子たちと同席していた。」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「当時ユダヤ人が罪人として嫌った**取税人(徵税人)**」を「**マタイ**」を初め、「大勢の税金取りや罪人」と、食卓をともにされました。

⇒「**取税人(徵税人)マタイ**」の仲間になられたのです。パリサイ人の批判非難を覚悟したものでした。主題は、**取税人(徵税人)マタイ**の服従ではなく、「**マタイ**を初め大勢の税金取りや罪人」を招き、「**罪人の仲間**」なって下さったことです。

⇒「**取税人(徵税人)マタイ**」は、裏切り者、売国奴でした。「**御子イエス・キリスト様**」は、レビの名を持つ**マタイ**(主の賜物)を仲間にされました。

◇11～13節;「パリサイ人はこれを見て、弟子たちに言った」、「『なぜあなた達の先生は、税金取りや罪人と一しょに食事をするのか』」、「聞いて言われた、『丈夫な者に医者はいるない、医者のいるのは病人である』」、「わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない」、「『丈夫な者に医者はいるない、医者のいるのは病人である』」、「『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』」という(神の言葉の)意味を、行って、勉強したがよからう」、「『わたしは正しい人を招きに来たのではない、罪人を招きに来たのである』」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』と」、「レビに**マタイ**という名をつけられた」のです。

⇒天の万物を神は、創造されました。人間も、神の秩序で、土の塵から創造されました。
⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「丈夫な者に医者はいるない、医者のいるのは病人である」と言われ、「**取税人(徵税人)マタイら罪人**」は、**罪の赦し**が必要なのだと、パリサイ人にお答えになったのです。

⇒さらに、「**御子イエス・キリスト様**」は、「ホセア6:6」の引用による、パリサイ人へのお答えです。「『わたしは憐れみを好み、犠牲を好みない』」で、「『【口語訳】ホセ 6:6 わたしはいつくしみを喜び、犠牲を喜ばない。燔祭よりもむしろ神を知ることを喜ぶ。』」からのもので、憐れみは、ヘブル語で、「**ヘセド**」が用いられています。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**ヘセド**」の心で、「**取税人(徵税人)マタイら罪人**」を思い、食卓をともにしておられると、語られたのです。

⇒「**ヘセド**」は、罪人と契約の関係を結んで下さった神への愛、いつくしみを現しています。

⇒南北のイスラエルに、罪とは、「あなたがたの愛(**ヘセド**)が雲や露のように消えるはかなさ、にあります。反対に、神の求めたもうものは、まさに「**ヘセド**」、愛、いつくしみ」なのです、と**SY師**は、説き明かしておられます。

⇒「燔祭よりも神を知ることを喜ぶ」とは、神への愛、いつくしみで、まさに、「**御子イエス・キリスト様**」の心そのもので、差別、偏見への激しい靈的な挑戦です。

結論：

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日の**マタイ9:9～13**は、**取税人(徵税人)****マタイ**の招きと罪人の食卓に主が着かれた箇所です。
⇒マタイ8:18～9:8の**自然の支配や中風の癒しと罪の赦しの権威**に続き、マタイにおける**神・「御子イエス・キリスト様」への権威への服従**を主が求めておられます。
- ⇒「**取税人(徵税人)マタイら罪人**」へ盲従を求めて語られたことではなく、「**ヘセド**」の心、神への愛、いつくしみの思いで、「**御子イエス・キリスト様**」は、**マタイ**を招き、「大勢の税金取りや罪人」と食卓の席に着座されたのです。
- ⇒「未開放部落問題」等、日本にも、まだ偏見と差別は存在しています。相手を批判することで、ことの本質を隠す発言を多いのです。

⇒SY師は、マタイが、今日のマタイ9:9～13とマタイ10:3との2回に亘って、「**取税人(徴税人)マタイ**」の表現を用いていることから彼がかつて「**取税人(徴税人)**」であったことを恥じつつ、「**御子イエス・キリスト様**」がつけて下さった「**マタイ(神の賜物)**」により今日の自分があると告白する「**使徒マタイ・取税人(徴税人)マタイ**」があると、指摘しておられる。

⇒私たちも、かつては恥すべき生活者でしたが、主ご自身の「**ヘセド**」(愛といつくしみ)によって、罪赦され、神への「**ヘセド**」に生かされていることに気づくのです。

⇒「**ヘセド**」は、契約のことばですから、主の祈りを繰り返し、使徒信條を告白する度に、結婚の契約を結びように、契約を遵守するというよりも、神の契約に守られていることに気づきたいと願います。